



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『伐ったたら、出したい』
 通年コース第八・九回開催報告 「伐出」

白露を過ぎたころから朝晩が涼しく感じられる伊那谷で、伐出の二日間。

樹を伐って、枝を払い造材し、材を集めて運び出す、一連の「伐出」。なかでも集材、いわゆる「出し」を中心とした作業を、木を寄せ集める

ウインチと比較的小型の林内作業車を使って体験して頂きました。

初日は、前回間伐をした新山のヒノキ林で、持ち運び可能な、いつでもどこでも簡単集材の「ひっぱりだこ」を使って、二十五キロと少々重



赤いキャップに材を載せ



作業道の下から集材

いですが、立木に本体と支柱を添わせてロープなどで固定すれば準備完了。丸太のところでワイヤーを引っ張って行き、材を集めます。このとき赤い木寄せキャップに丸太を載せて、それを引っ張るようになれば、切り株等の、ある程度の障害物なら避けながら引き寄せることが可能です。

二日目は、小屋近くのますみヶ丘の林内で、ウインチー基と積載デッキを装備し、集める・積む・運ぶができる「キヤトラ」を使って。クローラ型のこの機械は、二十度以下の緩傾斜であれば林内を走行でき(十五度から二十度の緩傾斜地では積載量を五百キロ以下に)、ウインチのみで地引きすることはもちろん、滑車を装備した支柱を引っ張るの引き寄せも可能。今回は支柱を利用しての集材・積み込み・運材を試してみました。口元に台付ワイヤーをつけた丸太をデッキに載るところまで引き寄せたら、台付ワイヤーを材の重心に近いところを見定めて掛け替えて、吊

り上げるようにして積み込む作業を繰り返して、土場まで運材。近年の林業現場では、伐倒・枝払い・造材・集材・積載という作業の複数の工程を一台の機械でできる大型の高機能林業機械が活躍を始めていますが、今回使用したような比較的簡易な機械でも、こまめに集材をすれば、切り捨て間伐ではなく、材の利用につながるっていくことと思います。

8時40分
 班分けをして、分乗で前回間伐をした現場へ向かう。



立木に添わせて

今回の内容
 通年コース 第八・九回

9月14日(金)
 伐出

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、早川講師による集材機械の種類別特徴や全木・短木集材についての説明。近年の林業現場では大型で高機能な機械が活躍を始めていますが、森林塾では簡単なウインチや林内作業車で集材をしています。



9時25分
 新山の美篤区有林着。機材を準備して、

9時50分

ひっぱりだこ集材開始。携帯型というものの、やはり重い本体を林道から林内へ持ち上げる。林内に散らばった丸太をみて回り、ひっぱりだこ本体を据え付ける樹を選んで、集材経路を考えてみる。支柱をロープで固定して、ワイヤーを材のあるところまで引っ張り、赤いキャップに材を載せたら、集材開始。

12時

昼食。

13時

ひっぱりだこ集材再開。滑車を使って、樹と樹の間を



ギリギリまで引っ張り込んで

9月15日(土)
伐出

8時30分
島崎先生の山小屋に集合。
日程説明の後、早川講師に
よるワイヤーの構造や強
度、ウィンチの乱巻きにつ

縫うようにワイヤーを引
き回して、材を集めてみま
した。
15時35分
作業を終了し、軽トラ三台
に丸太を積んで、小屋へ。
16時40分
講師講評。終了・解散。

いての講義。集材時の合図
の徹底をお願い。
8時45分
イントラ川島さんから、熊
剥ぎ防止資材の紹介。
9時15分
小屋近くの旧日影区有林に
て、キャタトラ集材開始。
まずは、走行してみる。樹
の間を前進・後退・右旋回・
左旋回。丸太のある、なる
べく近くの安定した場所
まで行き、アンカーをとつ
て集材開始。引っ張り寄せ
ては、デッキに積んで、
を繰り返し、満載にして運
んでみました。



切り株を避けながら

12時10分
小屋へ戻り、昼食。
13時
キャタトラ集材再開。数本
の樹を伐倒・造材して、そ
の材を寄せて積んで運ん
でみる。
15時50分
作業を終了し、小屋へ。
16時10分
講師講評。次回連絡をして
終了・解散。お疲れ様でし
た。
参加者/秋田さん、今井(健)
さん、今井(杉)さん、神
田さん、工藤さん、小淵さ
ん、佐藤さん、田村さん

中野さん、平野さん、水野
さん、熊木さん、園田さん、
長坂さん
講師/早川講師
スタッフ/川島、小泉、坂野
次回以降の予定
専門コース第三回
10月4~6日
(木・土)
早いもので、専門コースは
今年度最後の開催となりま
す。初日に伐倒方向・退避路
確保・伐倒時の立ち位置など
の復習をして、より安全・確
実な伐倒、丁寧な枝払い、重

心を見極めた造材
を。傾斜地での伐倒
にも挑戦してみま
しょう。
三日間とも、8時
30分、島崎先生の山
小屋に集合です。
第十・十一回
10月12・13日
(金・土)
見学・枝打ち
一日目は、伐った木の、そ
の後。午前中に長野県森林組
合連合会の伊那木材市場に
て、木材流通の一端の見学
を、午後は、有賀建具店さん
で建具や家具の加工・材の見
本を見学させてもらう予定です。
なお、伊那木材市場にて
予定しておりました模擬入札
は都合により中止となりました
ので、申し訳ありません
が、ご了承願います。
二日目は、特別講師の保科
先生による枝打ち講座。午前
中に、ぶり縄を作つて木に登
る練習を。午後は現場で枝打
ちです。枝打ちの目的や時
期・方法を掴んで下さい。ま
た、保科先生愛用の道具も必
見です。
二日間ともに、8時30分、
島崎先生の山小屋に集合で
す。



寄せて、積んで、運べる

集中コース秋の部
11月1日(木)
~11月3日(土)

KOA森林塾のエキスを集
めた三日間です。樹の太さや
高さを測る測樹と施業診断か
ら、チェーンソーを使った伐
木造材、携帯型のウィンチを
使った簡単な集材まで、一通
りのことをやってみます。あ
れやこれやと盛り沢山になり
ますが、何か一つでもお持ち
帰りいただければ幸いです。
また、初日1日(木)の夕方
は交流会です。
初日は9時に、二日目・三
日目は8時30分に、島崎先生
の山小屋に集合です。



リレー通信

KOA森林塾に参加して

加藤 京子



私がKOA森林塾を知ったのは、浜田久美子さんの著書「森をつくる人びと」を読んだからです。それらの本を読んで、島崎洋路先生にお会いしてみたい！というミーハー気分で、札幌からKOA森林塾の集中コース(夏コース)に参加することにしました。



なぜ、島崎先生にお会いしたいと思ったのか。それは、私が今、「木育」という活動を行っているからです。木育は、北海道で生まれた新しい言葉で、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです。また、身近に使っている木がどの森で育っているのか、山の木(緑側)と材としての木(茶側)を繋げることも、目的の一つです。そのためには、「林業」は無視することができません。

私は某大学の「林学科」出身なので、林業の知識は多少なりともあるのですが、残念ながら「林業」に関する実習はほとんど無かったため、林業の作業の大変さなど、全く知りません。「林業」のことを知るためにはその作業を体験することも必要だ、と思い、森林ボランティアで山仕事を体験することにしました。それと同時に、山仕事のやり方をちゃんと学びたい、と思いい、学ばなら、林業に対する熱い思いがある島崎先生が講師をしているKOA森林塾だ！と

八月一日の朝、あこがれの島崎先生にお会いできると思い、ドキドキしながら島崎山研修所に行きました(かなり遅刻しました、すみません)。しかし、なぜか島崎先生はいらっしゃいません。あとで伺ったところによると、数年前に島崎先生は常勤講師を勇退され、今は特別講師としてたまに顔を出されるだけとのこと。夏はいろいろお忙しく、KOA森林塾には顔を出されないと伺いました。かなりショックな状態で、森林塾が始まったのでした。ちゃんと調べておかなければいけませんね。

今回の参加者は二人。ちよつと寂しいなあと思ったのですが、作業をたっぷりすることができ、講師の方に質問もいっぱいできたので、かなり贅沢でした。講師の早川さんも、事務局の坂野さんもとて親切で、わかりやすくチェーンソーの使い方や、木の伐り方、林業の考え方を教えて下さいました。座学が比較的少なく、体験重視の講習がなかなか良かったです。

今回一番やりたかったことは、立木をチェーンソーで伐ること。「間伐が必要だ」という言葉を良く聞きますが、それをするためにどんな技術を知りたかったからです。木育のイベントで、「間伐体験」をやってみました。思いもありません。それほど混んでいない森のはずなのに、一回もかかり木にしてしまいました。やっぱり、森の中で素人が木を抜倒するのは難しいのだなあと感じました。枝を払ったり、丸太にしたりするのも結構大変でした。丸太にチェーンソーが挟まれないようにしたり、チェーンソーが地面につかないようにしたり、現場でなければわからないことがいっぱいあります。また、集材作業も、トビをうまく使いこなすことができず、ひっぱりだこで丸太を集めることはできません。それらを整理するのは講師の早川さん任せになってしまいました。山での作業は、その場その場で考えながら作業をしなければいけない、かなり経験や技術が必要な作業だと感じました。



今回、KOA森林塾で経験したことは、私が今後木育のイベントで、山仕事体験をするのだったらどんなことができるのだろうか、ということを考える非常に良い参考になりました。ただ、やっぱり林業に対する熱い思いを伺うことができなかったのは、ちよつと残念でした。山仕事のやり方は教えていただけただけです。

リレー通信

私の田舎暮らし 山中 俊男



が、KOA森林塾のHPに書いてある、「KOA森林塾のねがい」に書いてあるような、熱い想いは残念ながら感じることができませんでした。

私は数年前から上伊那で自給的暮らしをしている。東京と伊那の二居住生活だが、仕事は東京、暮らしは伊那と割り切っている。自給的な田舎暮らしには、畑仕事と同時に山仕事の知識と技術が必要。農業に関しては、移住をする前に、それなりの知識や技術は身につけたつもりでいる。しかし、山仕事の知識はまったくゼロ。そんな私にとって、KOA森林塾の集中講習は、とてもありがたい。

そもそも、なぜ私が伊那で田舎暮らしを始めたか。それは、「田舎でのんびり暮らしたい」というのんきな動機ではない。一言でいえば、「食と農の危機」意識からである。今世紀に入って雪印乳業食中毒事件やBSEにはじまり、その後の食品の偽装表示等々から今日のミートホープ、不二屋事件、最新では「白い恋人」まで、食品の安心安全を裏切るニュースが相次いでいる。利益優先の食品関連の流通・加工業界。それを監督する行政の信頼性は地に落ちていて、憤りさえ感じる。特に食糧自給率が四割を切っているというのに、日本の食と農に関する行政のトップである農水大臣や厚生大臣の今日の有様はみれば、その問題は深刻だ。

一方で、食品生産の現場である農村は、高齢化と過疎で崩壊寸前。農作物の価格低迷。就農人口の減少。耕作放棄地の増加。日本の農地は確実に縮小している。

食べ物スーパーやコンビニ二でいつでも簡単に手に入る、のんきにかまえていた都市の消費者も、さすがに近頃は食の安全安心には少しは興味関心を持つようになっていく。しかし、食の生産現場である農村の現状までは理解できていない。そもそも農業の問題は、農家の問題などではなく、実は私達一般消費者自身の問題なのだ。私は、食と農の大切さを、都市に住む人々、特に小さい子どもたちにも伝えることを考えている。そ



味不明なS、形状比、地位などの言葉が飛び交い、私はいつしか睡魔に襲われる。ひよつとして、このような内容の研修が、残り二日も続くのかと思うと、本気で心配になる。

のために、都市に住む子どもたちが、実際に農村に来て、様々なことを見聞きする体験活動をするための拠点をこの伊那の地に作るかと考えている。

とは言うものの、まだまだ始めたばかりで何も形になっていない。今は、私自身が農村の体験学習している状態。毎日、楽しく苦戦している。夢が実現するのは五年後、十年後か。

さて、森林塾集中コースの感想を少し。今回の受講者は、私を含めて二名。そして、講師二名。まさに、マンツーマンの手厚い指導は、ありがたかった。

三日間の研修の初日は、午前中はチェーンソーの試し切り、そして森林の現地調査。実際に檜の林に分け入ったところ、測樹はとても爽快だった。ところが、午後は一転して、室内で座学。計測したデータをともに施業方針をたてる。意

二日目は、樹高が二十メートルを超えようかという檜や赤松の大木の伐採。「どれでも好きな木を選んで切ってください。」といわれても、生まれて初めての体験で動揺する。もう一人の受講者(女性)に先を譲る。都合のいいレディーファーストである。彼女は何のためらいもなく、もつとも太くてもつとも高い木を選ぶ。その大胆さに、脱帽。時間が許す限り交互に伐採が続く。受講者が少なかつたため、一人あたり四本もの伐採を体験できた。この日は、つくづく受講してよかったと思う。

最終日は、集材。伐採し一定の長さに切った木材を小型ウインチで引き下ろし、一カ所に集める作業。人力の作業はワイヤーを木材に巻き付けるだけ。ところが、その作業が三日間で最もきつい作業だった。重いワイヤーを引きながら、急斜面を上り下りの繰り返しは、思った以上にきつい。「交代しましょうか」というもう一人の受講者の言葉が、女神のささやきのように思えた。火照った額に気持ちよい風を受けながら、今切り倒した大木に腰を下ろし、遠くで響くチェーンソーの音を聞いていると、一人前の木こりになったような気分になった。最後に、講師の坂野さんと早川さんの指導法に感心。内容も対象も違えども、同じ指

導する立場にいる私にとつて、多いに参考になった。正しい方法を見せる。次ぎに実際に体験させる。その過程で失敗や間違いを的確に指摘する。そして、最後に必ず、ほめる。これは指導法の原則だが、それを両氏は自然にこなす。指導するといつよりも、いつもそばにいて見守っていてくれるという両氏の指導法は、危険な作業に挑戦している初心者にはとても安心感があり心強かった。お二人には、本当に感謝している。

樹のコラム

穂つつじと

梅花つつじ

つつじ科つつじ属 合弁花 落葉低木。山地に生育し、どちらも樹高一〜二mで葉は互生します。梅花つつじと穂つつじの葉はそれ程似ていると言っ感じではないですが、見分けるときに明確にこの木はこうだと、識別出来れば良いかなと言っことで、参考にしていただければとおもいます。

三個あり、枝をさわってみると良くわかりますが、三角形になつてつくとことからきています。穂つつじも花が、穂のようになってつくことからきています。穂つつじは別名を松木肌と言ひ、樹皮が松の肌似ているためだそうで、昔はこの枝を、ほうきに使つたことから、山ぼうきとも呼ばれています。



梅花つつじの葉は長さ三〜七cm・幅一・五〜二・五cm、穂つつじの葉は長さ二〜六cm幅一〜三cmで、それ程の違いはありませんが、両方の葉を並べて見てみるとその違いがわかります。梅花つつじでは、葉の表面がしわつぽくなつていて、縁には鋭い鋸歯があり、裏面は粉白色で、葉柄が五〜十mmになつています。一方、穂つつじの葉は、縁は全縁で少し波打つ感じになつていて、基部にいくに従ひ、葉が流れていくような感じで、はっきり葉柄という形にはなつてないです。また、穂つつじの枝には翼状の稜が

ですが、梅花つつじは白い花を梅に見立ててついたそうです。穂つつじも花が、穂のようになってつくことからきています。穂つつじは別名を松木肌と言ひ、樹皮が松の肌似ているためだそうで、昔はこの枝を、ほうきに使つたことから、山ぼうきとも呼ばれています。

そして、両種の花は名前からも想像はつくと思ひますが、全く違います。梅花つつじの花は六月〜七月で葉が展開してから、白い小さな花が咲きます。上側の裂片に、赤い斑点があり、雄しべが五個長くつき出したように葉のかげでひっそりと咲いています。穂つつじの花は、梅花つつじよりも遅くて、八月〜九月に長さ五〜十cmの円錐花序を直立して咲きます。暑い真夏の時期に咲く花はあまりないので、林内で作業している時に、涼しげに咲いているこの花に出会つと、なんだかホツとします。花の色は淡い紅色で、長さ一cm、幅三mmの大きさの花を、穂のように付け、花びらは後ろにくるんと振り返るよに咲きます。ちなみに、花の名の由来で



す、梅が丸高くなつたよつな、時折うろこ雲が見える空。稲穂が垂れ、陽に輝く田舎から秋へ移ろふ季節。体調を崩されませぬよう。

おわりに

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp



「鶯」